

【本調査の目的】

2009年6月より、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施することになりました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

【調査実施期間】

2009年7月16日(木)16:00～2009年7月23日(木)16:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『ネクスト総合口座』、『FXトレード口座』のいずれか一方、または両方に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。
今回の有効回答数は、7379件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

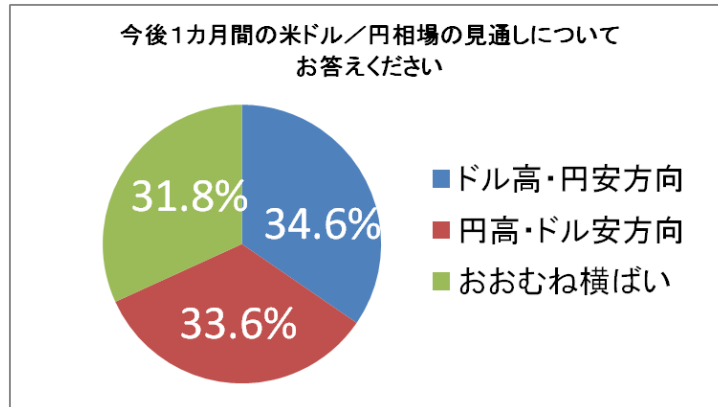
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第2回調査結果の略報】

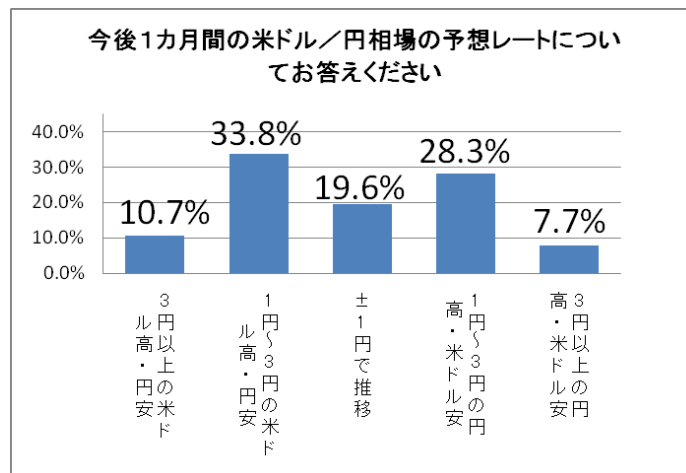
問1: 今後1か月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

今後1か月間のドル円相場見通しについては、「ドル高・円安方向」と答えた割合が34.6%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が33.6%となった。この結果「ドル円予想DI」は+1%ポイントと、前月の-14.2%ポイントから大幅に上昇した。ただし、DIの水準そのものはドル強気派と弱気派の見方が拮抗するゼロ界限に戻っただけであり、世の中の平均的な見方がドル強気に傾いている訳ではない。調査期間中において、円高観測と円安観測が拮抗状態に回帰したというのが実情だろう。



問2: 今後1か月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

今後1か月間のドル円相場の予想レートについては、「1円～3円程度のドル高」と答えた割合が33.8%と最も多く、「1円～3円程度の円高」予想が28.3%、「±1円以内」が19.6%、「3円以上のドル高」が10.7%、「3円以上の円高」が7.7%という順番になった。問1に示された回答結果とおおむね整合的な結果で、ドル高予想の割合が若干高いものの、円高予想も相応の勢力を維持している。前回調査で最も多かった「±1円以内」は大幅に減少し、ヒストグラムの形状が「逆W字型」になっているのが特徴だ。ドル円相場の動きの鈍さに直面して、「どちらかに動く」という感覚は芽生えているものの、全体としては方向感を見極めにくいという雰囲気が如実に表れている。

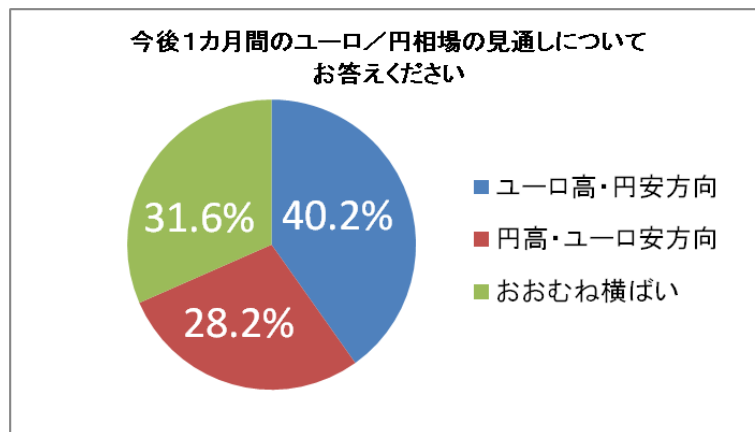


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

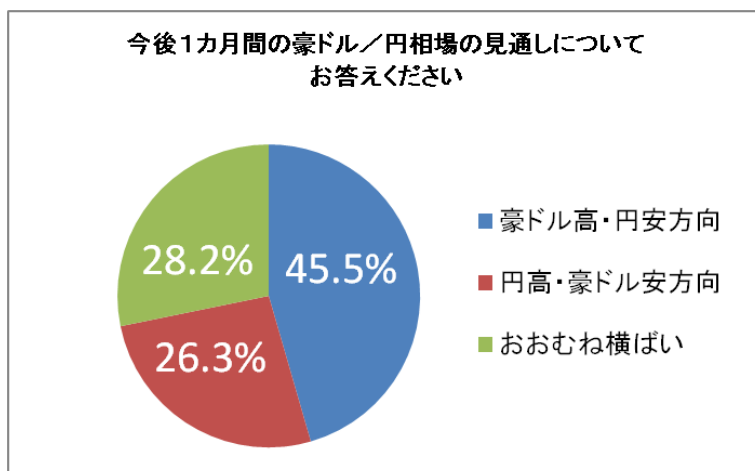
問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

今後1か月間のユーロ円相場見通しについては、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が40.2%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が28.2%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は+12.0%ポイントと、前月の+11.2%ポイントに比べ、小幅ながら更に上伸した。ユーロ円相場においては、相変わらずユーロ高予想の割合が高い状態が続いている。



問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

今後1か月間の豪ドル円相場見通しについては、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が45.5%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が26.3%となった。この結果、「豪ドル円予想DI」は+19.2%ポイントと、前回調査の+25.1%ポイントから減少した。前回調査に比べ、豪ドル強気派の勢力は若干衰えたものの、依然として豪ドル強気派の勢力が優勢である状況に変わりはない。



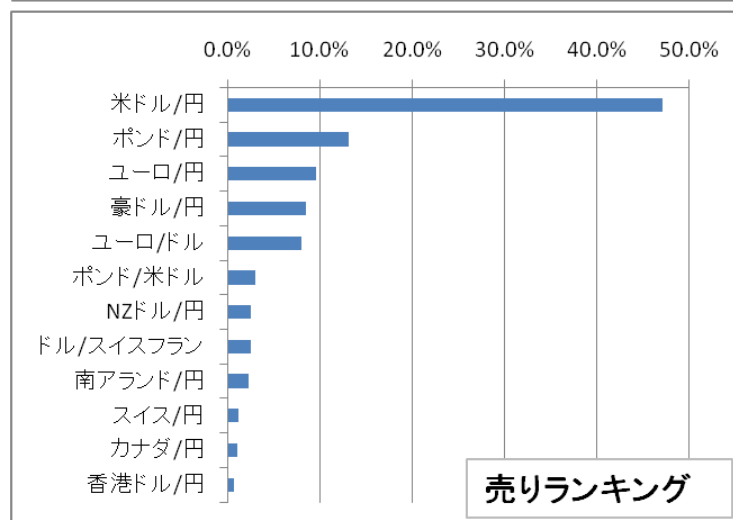
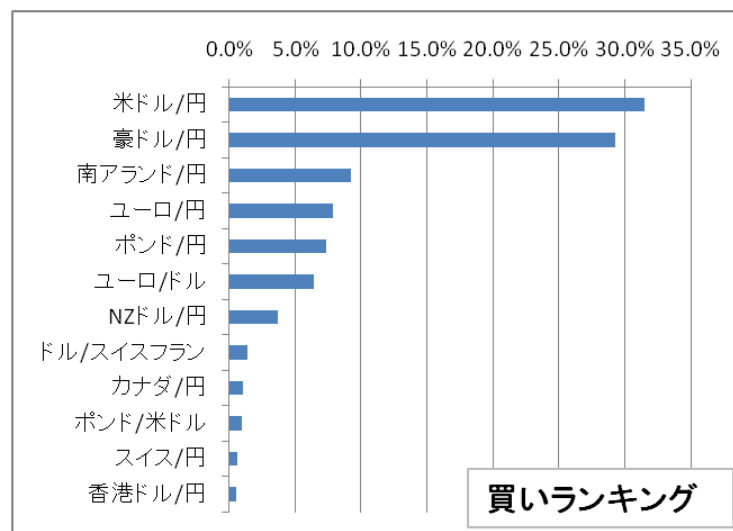
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

今後注目している通貨ペアについて質問したところ、「買い」で注目されている通貨ペアの順位は、1位米ドル円(31.5%)、2位豪ドル円(29.3%)、3位南アランド円(9.3%)、4位ユーロ円(7.9%)、5位ポンド円(7.4%)であった。一方「売り」で注目されている通貨ペアの順位は、1位が断トツで米ドル円(47.1%)となっており、その後2位ポンド円(13.1%)、3位ユーロ円(9.6%)、4位豪ドル円(8.5%)、5位ユーロドル(8.0%)が続いている。

米ドル円は売りでも買いでも注目される通貨の地位を維持しており、入手可能な情報量の多さや流動性の高さなどから、強気あるいは弱気の相場観とは無関係の「売買の対象」として見た場合、最も人気の高い通貨になっている。

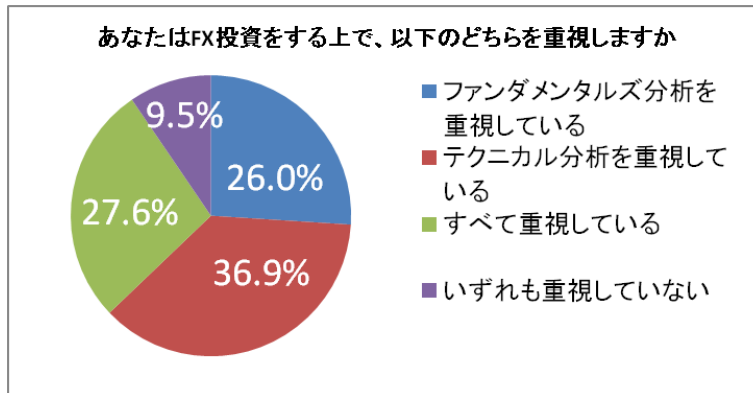


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

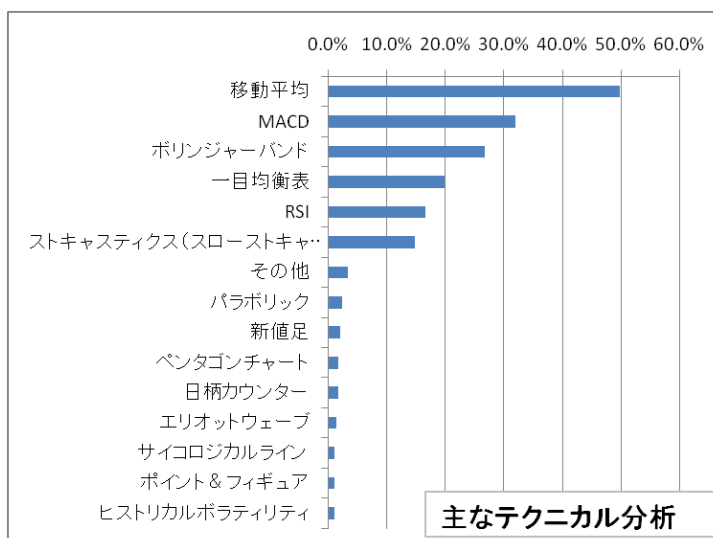
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が26.0%であったのに対し、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が36.9%と、テクニカル分析を重視する投資家の割合の方が高かった。「すべて重視している」との回答割合が27.6%、「どちらも重視していない」が9.5%であった。前回調査と比較してみた場合、回答割合に目立った変化は生じていないが、今後相場環境が急激に変化する局面において、個人投資家の分析手法の好みが変わるか否かが注目される。



問7: テクニカル分析では何を主に活用していますか?

「テクニカル分析で主として活用している手法」について複数回答可として尋ねたところ、「移動平均(49.8%)」が最も高く、「MACD(31.9%)」、「ボリンジャーバンド(26.7%)」、「一目均衡表(20.0%)」、「RSI(16.7%)」、「ストキャスティクス(14.8%)」の順番で並んでいる。テクニカル分析の手法は、非常に数多く存在しているが、やはり比較的シンプルな移動平均を用いた分析が、FX投資家にとっては一番人気のようだ。いわゆるトレンド系と逆張り系に分けてみた場合、人気上位は比較的バランス良く配置されているが、どちらかと言えばトレンド系の方が人気が高い。

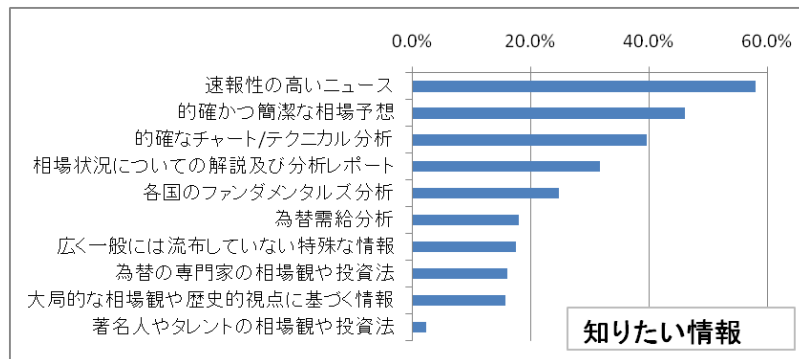


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

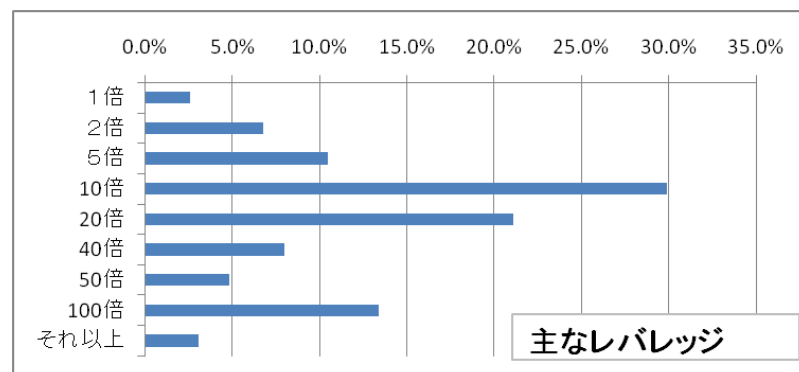
問8: FX投資をする上で、最も知りたい情報は?

「FX投資をする上で最も知りたい情報」について複数回答で尋ねた結果、「速報性の高いニュース(58.1%)」と答えた割合が最も高く、以下、「的確かつ簡潔な相場予想(46.2%)」、「的確なチャート/テクニカル分析(39.6%)」、「相場状況についての解説及び分析レポート(31.7%)」、「各国のファンダメンタルズ分析(24.8%)」、「為替需給分析(18.0%)」、「広く一般には流布していない特殊な情報(17.6%)」、「為替の専門家の相場感や投資法(16.0%)」、「大局的な相場観や歴史的視点に基づく情報(15.8%)」と続いている。複数回答可能な形式で質問したことも一因だろうが、非常に幅広い情報提供を欲している個人投資家の姿が浮き彫りになっているといえるだろう。なお、回答割合の順番は前回調査に比べて、全く変化していない。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか?

FX投資の際に主として活用しているレバレッジについて尋ねたところ、10倍と答えた割合(29.9%)が最も多く、20倍(21.1%)が2番目に多かった。これに次ぐ3位が100倍であったが、その比率は13.4%であり、「それ(100倍)以上」と答えた3.1%を合わせても2割に満たなかった。外国為替保証金取引について、高レバレッジの投資家層の「武勇伝」が一部の媒体で喧伝されることもあるが、今回のアンケート調査に応えた個人投資家の70.9%は20倍以下の倍率を主として活用しており、比較的堅実な取引実態が示唆されている。

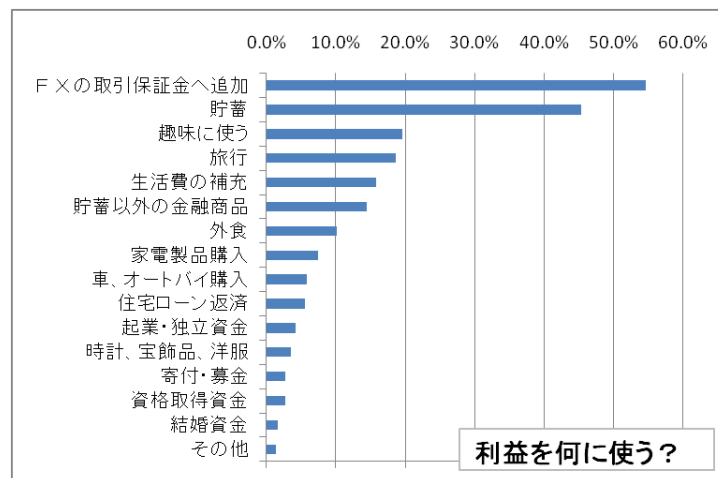


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問10: FXで利益が出たら何に使いますか？

「外国為替保証金取引で利益が出たら何に使うか」について、複数回答可として尋ねたところ、「FXの取引保証金へ追加(54.6%)」が最も多く、「貯蓄(45.3%)」の回答割合がそれに次いで多かった。3位以下の回答割合は大きく下がるが、以下、「趣味に使う(19.5%)」、「旅行(18.6%)」、「生活費の補充(15.8%)」の順番だった。為替好きのFXファン層は、利益を得たらポジションを増やす傾向が強いようだ。一方、貯蓄に回すとの回答割合も相応の比率を占めているという事実は外国為替保証金取引を資産形成の手段とみなしている個人投資家層の存在を示唆している。アミューズメント性と貯蓄性の両方を具備したFX取引の特徴が良く表れている。



【今後の調査実施計画及び公表方針】

第2回目の調査になった今回から、前回調査との時系列比較が可能になり始めています。統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期の時系列比較を提示することはまだできませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってきます。また、本調査では、毎月公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を活用した、投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年春先以降に公表する「年次白書」で紹介する予定です。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月									
	9月									
	10月									
	11月									
	12月									
2010年	1月									
	2月									
	3月									
	4月									
	5月									
	6月									
	7月									
	8月									
	9月									
	10月									
	11月									
	12月									
	1月									
	2月									
	3月									

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com